



最近のどきどきから思うこと



『赤旗』日曜版2022年11月のスクープから端を発した自民党の裏金問題。去年話題になった「エツフェル姉さん」達のフランス研修問題。青年局近畿ブロック会議後の懇親会問題。自民党一強が産んだおごりか。

5月1日の水俣病患者団体との懇談で、環境省側は発言中の被害者のマイクを切った。予定時間はわずか3分間で、もちろん足りるはずもない。新聞報道では、予定時間は例年通りだが、過去の開催では時間超過でも音を切ることは無かったとのこと。切った理由は、帰りの新幹線に合わすためだったと言う。

『月刊まなぶ』5月号特集「声なき声を集め抵抗につなげよう」の裁判所での話。裁判長が原告側発言中に何やら言いながら退席した。原告も被告の国側もあつげにとられた、という。

安全保障で「食」を守るため、有事には非食用作物か

ら食用作物への転換を可能にする法案が出されている。主に苳^{かき}弁^き生産を指すと思うが、耕作放棄地（2015年42・3万ha）を減らす政策はどうなっているのか。

12月に紙の保険証からマイナ保険証へ変更される。が、4月時点での利用率は6・56%という。何故、この利用率でも変更を強行するのか。

たったこれだけのことでも、如何に人間を愚弄しているのがわかるし、それに鈍感な自分が情けない。

国鉄清算事業団闘争を文化面から応援した趙博^{チョウホク}さんの「光のエチュード」の一節を思い出す。「この国の病気は治らないかも知れない だけど私たちが死ぬわけにはいかない」

労働大学企画編集委員 池内 康宏